

## 7月豪雨における鹿野川ダムなどの放流操作 及び情報提供についての説明会がありました。

国交省、四国地方整備局、山鳥坂ダム事務所の方々には7月の豪雨災害について、説明にご多忙の中おいで頂いてありがとうございます。

4名の市民を亡くし、痛恨の思いです。101400ヘクタールの浸水被害で、現在も避難生活をしている方々がいます。市民の胸中を察すにあまりある。ボランティアや自衛隊等に支援を頂いた。7月31日大洲市の補正予算を専決処分した。

今後犠牲者を出さないために、どうするか。安心して日常生活が出来るようにどうするか。抜本的、恒久的対策を求めたい。今までとは違う想定外のことが起こる。治水対策と同時に避難対策のソフト面の取り組み、堤防の嵩上げ、洪水吐きトンネルなどで災害に強い町作り進めて参りたい。

今後の課題を明らかにして、対策を作り上げるのが防災の出発点だともう。国交省の方にはわかりやすく説明していただきたい。

定めているルールで行った。ルールは関係機関と事前に決まっていた。

ダム湖の容量は1200万m<sup>3</sup>。堆積量 440万m<sup>3</sup>

お答えできない。

貯めることができる量が増えるので、被害の軽減ができる。

具体的に答えられませんでした。

慶雲寺など1万m<sup>3</sup>・樋門2000m<sup>3</sup>の土砂を除去する。河道内の樹木の伐採をする。